

# 福島県総合計画

中間整理案

(概要版)

福島県

※ 写真や図表は現時点での暫定のものです。  
統計の数字なども、今後最新のものに置き換えます。

# 知事あいさつ

知事あいさつ用の空白枠

※知事の写真が入ります。

※知事のあいさつを記載します。

## 第1章 総合計画の基本事項

### 計画の特徴

総合計画は、県のあらゆる政策分野を網羅し、県づくりの指針や施策を示す県の最上位計画です。

計画期間は、令和4(2022)年度から令和12(2030)年度までの9年間とします。

ふくしまの30年先の未来について、県民の皆さんや福島に想いを寄せる方それぞれが思い描きつつ、10年程度先のふくしまの将来の姿(未来予想図)をオールふくしまで創り上げます。

未曾有の複合災害からの復興、急激な人口減少への対応という前例のない課題を克服しようとする本県の取組は、SDGs(※)が目指す「誰一人取り残さない多様性と包摂性ある持続可能な社会の実現」とその方向性が一致していることから、SDGsの理念を踏まえながら、各種施策を推進していきます。

本計画の策定に当たっては、県民の皆さんの総合計画への関心を高め、将来の地域づくりや県づくりを自分事として捉える機運を醸成することが大切であると考えました。そこで、計画策定の過程において、子どもから大人まで幅広い年代にわたる多くの県民との対話の機会を設けました。

また、地方振興局単位の地域懇談会における多様な立場の県民の方々との意見交換に加え、小学生から大学生までのワークショップ(意見交換会)や高校生などを対象とした約3万人のアンケート等を実施しました。



※画像は暫定版です。

### (※)SDGs:Sustainable Development Goalsの略称(エスディー・ジョーズ)

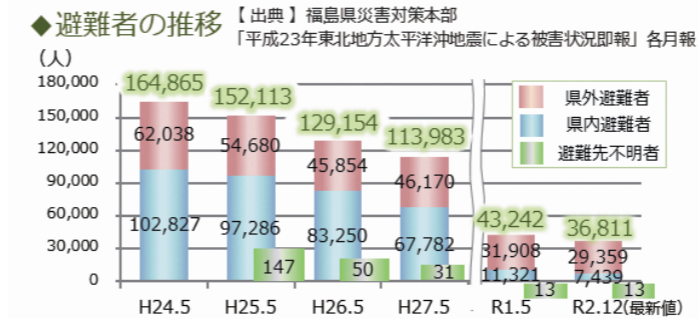
世界が抱える課題を解決し、誰一人取り残さない、多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、平成27(2015)年の国連サミットで決定した国際社会の共通目標。17の目標と169のターゲットが示されています。



## 第2章 福島県を取り巻く現状と課題

### ▶復興・再生の現状と課題

- 避難地域の復興・再生
- 避難者等の生活再建
- 風評払拭・風化防止対策の強化
- 福島イノベーション・コースト構想の推進
- 新産業の創出・地域産業の再生
- 復興を支えるインフラ等の環境整備
- 廃炉に向けた取組



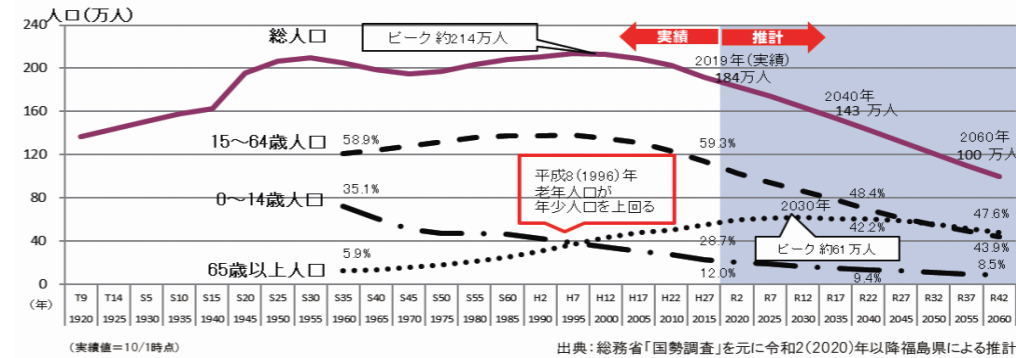
※図表は暫定版です。今後最新のものに置き換えます。



※図表は暫定版です。今後最新のものに置き換えます。

### ▶地方創生の現状と課題

- 人口減少が地域社会に与える影響(就業者・所得の減少、地域コミュニティの衰退、社会保障の増加等)
- 「福島県人口ビジョン」に基づく自然増・社会増を目指す



※図表は暫定版です。今後最新のものに置き換えます。

### ▶横断的に対応すべき課題

- 頻発化・激甚化する自然災害への対応
- 新型コロナウイルス感染症への対応
- 地球温暖化対策
- デジタル変革(DX)の推進

### ◆新規陽性者数の推移等



※図表は暫定版です。今後最新のものに置き換えます。

### 福島県を取り巻く現状と課題

- ①復興・再生の現状と課題
- ②地方創生の現状と課題
- ③横断的に対応すべき課題  
(自然災害、新型コロナウイルス感染症、地球温暖化対策 など)

### 県民の皆さんの意見

本計画の策定に当たっては、多くの県民の方々に参加していただき、問題意識の共有を図りました。福島県総合計画審議会での議論、市町村との意見交換、県内各地で開催したワークショップや地域懇談会等を通じ、県民の皆さんから「ふくしまの将来の姿」についてたくさんの意見を頂きました。

- ①総合計画審議会 ②地域懇談会 ③市町村との意見交換
- ④対話型ワークショップ(小中学生・高校生・大学生) ⑤アンケート など

### 県づくりの理念

- 多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり
- 変化や危機にしなやかで強靱な地域社会(県)づくり
- 魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり

### 基本目標

やさしさ、すこやかさ、おいしさにあふれる  
豊かな地域を共に創り継ぐふくしま(事務局原案)

県民の皆さんから頂いたふくしまの将来の姿についての意見を  
県づくりの理念に沿って見ると、大きく次の3つに集約できます。

「誰もが活躍できる」  
「ひとりぼっちにしない」  
「人とのつながり・支え合い」  
などの

“人が大切にされる”  
= **ひと**

「医療・福祉が充実」  
「災害や犯罪が少ない」  
「子どもが育てやすい」  
「自然豊か」などの

“安心・快適に暮らせる”  
= **暮らし**

「産業や観光が盛んである」  
「雇用の受け皿がある」  
「一次産業の活性化」  
などの

“働ける場所(仕事)がある”  
= **しごと**

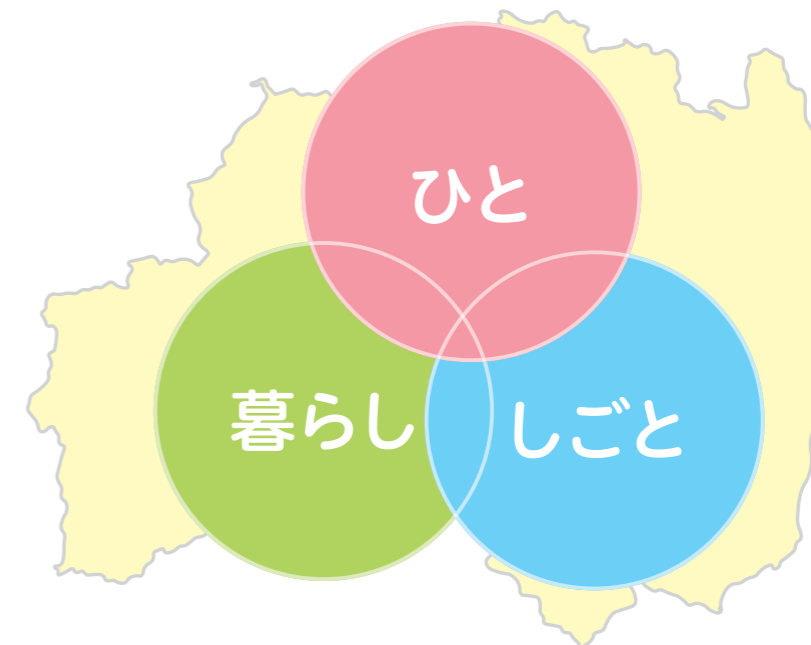
この「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの側面は、相互に関連性があり、相乗効果がある場合もあれば、相反する関係にある場合もあります。

大事なのはバランス(調和)を取りながらこの3つを伸ばしていくことです。

これらを総じて、「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」を、次のとおり決めました。

**ひと** **暮らし** **しごと** が

“調和しながらシンカ(深化、進化、新化)する豊かな社会”。



具体的な将来の姿について、  
・普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため  
・福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めるため



世界の共通言語である  
SDGsの視点で描く

▶ SDGs視点の将来の姿



福島県がどのような姿を目指すのか、福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めるため、普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すため、SDGsの17の目標ごとの視点で描きます。

**10 人や国の不平等をなくそう**

●年齢、性別、国籍、文化など様々な背景を持つ人々が互いに尊重し、自分らしく暮らしている など

**1 貧困をなくそう**

●誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを受用できる環境が整っている など

**15 陸の豊かさも守ろう**

●豊かな自然環境が保全されている  
●希少な動植物の保護など生物多様性が保全されている など

**16 平和と公正をすべての人に**

●安全・安心で、差別や虐待のない人権に配慮した社会づくりが進んでいる など

**4 質の高い教育をみんなに**

●知識や技能のみならず、自ら考え課題解決できる子どもたちが育っている  
●震災の記憶の継承や復興への取組を基に、郷土への理解が進んでいる  
●生涯にわたって学び続けることができる環境が整っている など

**11 住み続けられるまちづくりを**

●各種都市機能の中心市街地への集積など歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりが進んでいる  
●本県の魅力の発信や受入体制の整備により、本県への移住・定住の流れが確かなものとなっている  
●避難解除等区域における生活環境等の整備や居住人口の増加が進んでいる  
●過疎・中山間地域においても、医療や生活交通などの生活基盤が安定的に確保されている など

**5 ジェンダー平等を実現しよう**

●地域や企業等が一体となり、多様な子育てを支援する体制が構築されている  
●あらゆる分野で女性の意思決定過程への参画が進み、女性活躍の場が広がっている など

**3 すべての人に健康と福祉を**

●若い世代から高齢者まで県民一人一人が心身ともに健康な生活を送っている  
●安心して妊娠・出産ができる環境が整備されている  
●安心して必要な医療を受けられる体制が充実し、医療の質も向上している  
●高齢者や障がい者など利用者の意向を十分に尊重した良質かつ適切な介護・福祉サービスが充実している  
●各種感染症に迅速かつ確に対応できる体制が整っている など

**2 飢餓をゼロに**

●産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している など

**7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**

●再生可能エネルギー関連産業の育成・集積が進み、一大産業集積地となっている  
●水素エネルギーの社会実証が進み、国内外の最先端モデルとなっている など

**14 海の豊かさを守ろう**

●水産資源を安定的に利用できる仕組みが確立され、活力ある水産業が営まれている など

**17 パートナリシップで目標を達成しよう**

●住民、企業、NPO法人や行政が連携し、住民主役のまちづくりが行われている  
●市町村とともに、効率的・効果的な行政サービスが行われている など

**8 働きがいも経済成長も**

●本県経済の中核を担う県内の中小企業などが主役となった力強い地域産業が成長・発展している  
●福島イノベーション・コースト構想の進展などにより地域外からの人材が還流・定着している  
●農林漁業者が他産業並の所得を安定的に確保している  
●県内観光地に国内外から多くの観光客が訪れている  
●若者、女性、高齢者など誰もが安心して働ける雇用環境が整備されている など

**13 気候変動に具体的な対策を**

●災害に強いライフラインやインフラの整備が進んでいる  
●防災に関する意識が高まり、自助・共助・公助による災害の備えが進んでいる  
●地球温暖化対策に県民一人一人が積極的に取り組んでいる など

**6 安全な水とトイレを世界中に**

●猪苗代湖を始めとする水環境が保全されている など



**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**

●県産品・観光の魅力や正確な情報の発信により産地評価の回復、競争力の強化が進んでいる  
●福島イノベーション・コースト構想が進展し、地域企業の活力向上と新産業の集積・育成が進んでいる  
●利便性が高い道路ネットワークが確保されるとともに、条件不利地域でも携帯電話等が利用できる  
●福島空港、相馬港や小名浜港は、物流拠点・交流拠点として域経済の活性化に寄与している など

**12 つくる責任 つかう責任**

●GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている  
●ごみの減量化やリサイクルなど環境に配慮したライフスタイルが定着している など



暮らし

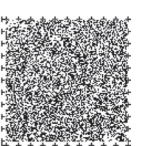
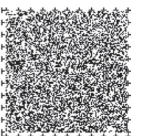
本章では、将来の姿の実現に向け、県がその役割の下に取り組む主要な施策について示します。

「ひと」分野		主な指標
1	<b>全国に誇れる健康長寿県へ</b> 若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防など4施策	健康寿命 など
2	<b>結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり</b> 出会い・結婚、妊娠・出産の希望をかなえる支援の充実など3施策	福島県で子育てを行いたいと回答した県民の割合(意識調査) など
3	<b>「福島ならではの」教育の充実</b> 「学びの変革」の推進と資質・能力の育成 など6施策	震災学習の実施率 など
4	<b>誰もがいきいきと暮らせる県づくり</b> 多様な人々が共に生きる社会の形成 など4施策	日頃、人と人との支え合いや絆を実感していると回答した県民の割合(意識調査) など
5	<b>福島への新しい人の流れづくり</b> ふくしまとのつながりの強化、関係人口の拡大 など2施策	人口の社会増減 など

「暮らし」分野		主な指標
1	<b>東日本大震災・原子力災害からの復興・再生</b> 複合災害からの復興の加速化、避難地域の復興・再生 など8施策	居住人口 など
2	<b>災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり</b> 災害に強い県土の形成 など7施策	土砂災害から保全される住宅戸数 など
3	<b>安心の医療、介護・福祉提供体制の整備</b> 質が高く切れ目のない医療提供体制の構築 など5施策	医療施設従事医師数(人口10万人対) など
4	<b>環境と調和・共生する県づくり</b> 豊かな自然や美しい景観の保護・保全 など4施策	本県の豊かな自然や美しい景観が保全され、野生鳥獣との共生が図られていると回答した県民の割合(意識調査) など

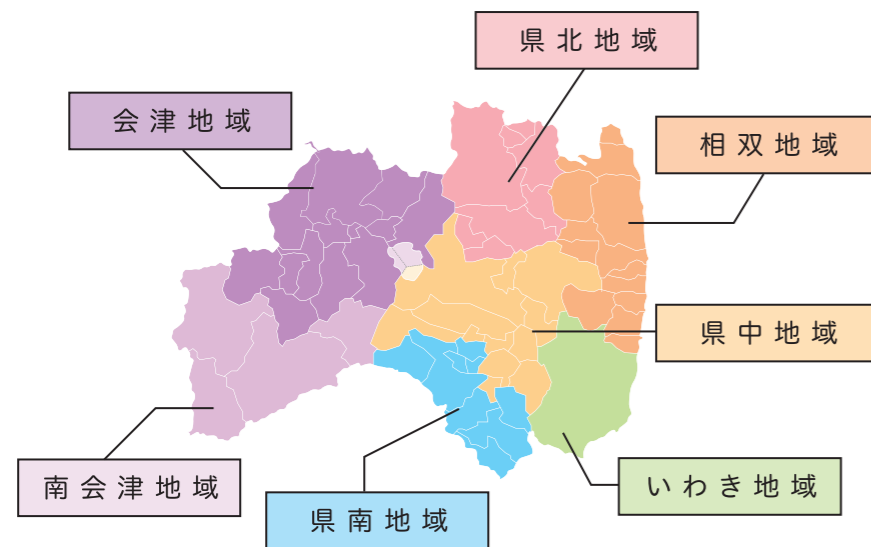
		主な指標
5	<b>過疎・中山間地域の持続的な発展</b> 過疎・中山間地域のひとの確保と地域力の育成 など3施策	自然と伝統が残る農山漁村地域を大切にしたいと回答した県民の割合(意識調査) など
6	<b>ふれあいと親しみのある魅力あふれる県づくり</b> にぎわいと魅力あるまちづくりの推進 など5施策	文化活動やスポーツ活動に積極的に参加していると回答した県民の割合(意識調査) など

「しごと」分野		主な指標
1	<b>地域産業の持続的発展</b> 地域の企業が主役となる、しなやかで力強い地域産業の育成・支援 など3施策	製造品出荷額 など
2	<b>福島イノベーション・コースト構想の推進</b> 福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業集積・振興 など4施策	域内総生産(GDP) など
3	<b>もうかる農林水産業の実現</b> 農林水産業の多様な担い手の確保・育成 など5施策	農業産出額 など
4	<b>再生可能エネルギー先駆けの地の実現</b> 再生可能エネルギーの導入拡大と利用促進 など3施策	再生可能エネルギー導入量 など
5	<b>魅力を最大限いかした観光・交流の促進</b> ふくしまの地域資源の磨き上げ及び魅力発信による誘客の拡大 など4施策	観光客入込数 など
6	<b>福島の産業を支える人材の確保・育成</b> 県内経済を支える人材の確保・育成 など3施策	安定的な雇用者数(雇用保険の被保険者数) など
7	<b>地域を結ぶ社会基盤の整備促進</b> 基盤となる道路ネットワークの整備 など3施策	7つの地域の主要都市間の平均所要時間 など



## 第5章 地域別の主要施策

地理的な条件や自然環境、歴史・文化などの特性をいかし、**県北、県中、県南、会津、南会津、相双、いわきの7つの地域区分**により地域づくりを推進していきます。



### 会津地域

- 会津地域を支える担い手の育成・確保と魅力ある地域づくり
- 誰もが暮らしやすい会津地域の生活環境づくり
- 新たな時代を拓く会津地域ならではの産業づくり
- 後世に残すべき会津の宝を守りいかず取組

### 県中地域

- 災害の克服、安全で安心して暮らせる地域社会の形成
- こおりやま広域圏の広域連携による多彩な地域資源を活用した交流人口拡大、関係人口の創出、移住・定住の推進
- 新たな未来を創り、地域経済をけん引する産業の創出・集積、高度産業人材等の育成・確保
- 地域に対する誇りと愛着を育む魅力あふれる地域づくりと生活基盤の充実、担い手の育成
- 経済・社会・環境のバランスが取れた持続可能な発展を成し遂げる地域社会の形成

### 相双地域

- 帰還促進と移住・定住の促進に向けた取組
- 持続可能な産業の再生と創出及び関連インフラの整備
- 地域の特性をいかした農林水産業と過疎・中山間地域の再生
- 時代の潮流を踏まえた生活基盤の構築

### 南会津地域

- 地域の特性をいかした産業の振興
- 地域資源を活用した交流・関係人口の拡大と移住・定住の促進
- 社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保
- 豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承

### 県南地域

- 地域の経済をけん引する活力ある産業の振興
- 地域づくりを支える担い手の育成や多様な人々を受け入れるための場づくり
- 地域の魅力をいかした交流の促進と広域連携による交流人口の拡大
- 人々が安全・安心に暮らし続けることができるまちづくり

### いわき地域

- 技術と人材をいかした産業の振興
- 多様な地域資源を活用した地域間連携による関係・交流人口の拡大
- 持続可能な地域づくりに向けた幅広い世代と多様な人材、団体、企業等の活躍の場の創出
- 震災と復興の経験をいかした安全で安心して暮らせる生活基盤の充実

※画像は暫定版です。

## 第6章 計画の推進のために

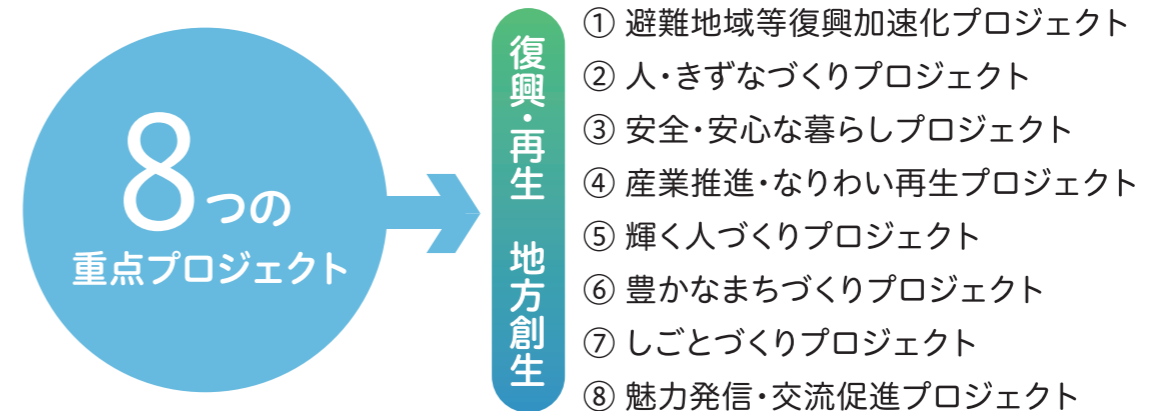
### ① 計画推進に当たっての考え方

この計画は、県民の皆さんを始め、民間団体、企業、市町村、県など、本県で活動する様々な主体が、本県の目指す将来の姿を共有し、県づくりを進めるための指針となるものであり、その実現のためには、それぞれの役割のもと、力を合わせて取り組んでいく必要があります。それぞれの主体が、自ら考え、自ら行動し、地域づくりを行えるよう、県としても、あらゆる主体との連携・協働を積極的に進めるとともに、地域課題の解決のため、地域の実情を踏まえた施策を推進します。

本計画策定後も、将来の地域づくりや県づくりを自分事として捉える機運を醸成するため、出前講座や対話の機会を設けるなど、あらゆる機会を捉えて、県民の皆さんの総合計画への関心を高める取組を進めます。

### ※重点プロジェクト

限られた行財政資源の中で、復興・再生と地方創生を推進するため、復興の進度の違いによって顕在化・複雑化する課題への具体的な対応など新たな復興のステージへの対応やふくしま創生総合戦略に基づく人口減少対策、特に重要な行政課題を8つの「重点プロジェクト」として展開し、重点的に取り組みます。



### ② 計画の進行管理

計画を着実に推進し、進行管理を行っていくために、毎年度数値目標の達成状況等を踏まえ、施策の効果を検証し、改善を行うPDCAサイクルを実行し、効果的な事業の企画立案につなげます。

